2021年9月吉日発行

宇津貫みどりの会 第99号

宇津貫みどりの会
連絡先　城所幸子
TEL/FAX 042-636-2466

ヒグラシの鳴き声が途絶え、虫の音が秋の訪れを告げています。記録的な豪雨と甚大な被害、先が見えないコロナ渦で気が滅入る毎日です。そのような中、6月初め、ホタル沢でフクロウの雛が確認されたのです。詳しくは4ページをご覧ください。

さて、私たちの活動は年間を通じて山の手入れをすることにが主体ですが、時にはこのようなビッグニュースが入ったり、季節の移り変わりごとに咲く花を観賞できます。9月にはハギ、ヒガンバナ、キバナアキギリなどが鮮やかな色の花を見せてくれます。日々の活動のご褒美と受け止め、地域の皆様にも観賞していただきたいと思います。

春の植物観察会は緊急事態宣言中のため中止としましたが、秋には実現したいものです。ホームページでご案内しますのでご参加ください。

宇津貫みどりの会
城所幸子

会員募集中！

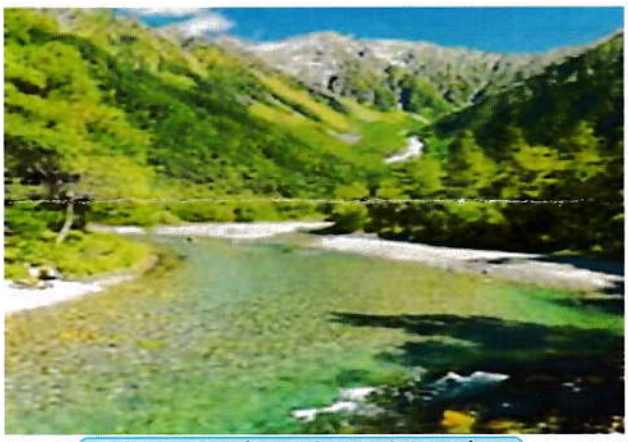
宇津貫みどりの会に参加して、里山の保全に汗を流してみませんか。月3、4回山の手入れを行っています。自然観察や健康増進に如何ですか。とても楽しい会ですよ!!

当会のホームページをご覧ください。
http://utsunukimidori.ie-yasu.com/
又は、QRコード

幼き日の思ひ出

私の故郷は四方山に囲まれた松本盆地。西は乗鞍岳から白馬岳迄続く北アルプス連峰。東には、緑に包まれハイキングに最適な美ヶ原高原のなだらかな山並みが望めます。

夏は32度以上と暑いですが、湿度が低くサラットしておりました。小学生の頃、槍ヶ岳を源流とした梓川へ行き、流れに身を任せ遊んでいました。流れが急で岩にぶつから無い様にするのがコツでした。然し、水が冷たく10分位が限度で、川原で日なったぼっこを。すると、釣り人が岩魚を串刺しにし美味しそうに食べており、友人と指を食わえて見ていましたが、ありつけませんでした。尚、この清らかで冷たい水は、わさび田に引き込まれ、美味しいわさびを育てます。



梓川（上高地付近）

わさび田（遠景は北アルプス）

やはり、夏の水遊びは松本城市営プールへ、10円を持って、5円は入場料あと5円はアイス代。50×16mのプールと子供用そして5mの飛込み台があり、いつも2時間程遊んでいました。帰りはお城経由ですが、その頃は上から下まで筵で覆われて居ました。お城が西に傾いた為 の昭和の大修理(S25～30)です。何故傾いたかは江戸時代後期の悲話が伝わっております。

年貢の取立が厳しく削減を要求して、農民一万人以上が庄屋の多田加助を先頭に奉行所を取り囲んだ。勢いに負けた奉行所は文書をもって許諾した。但し、多田加助の磔が条件で。磔台に上った加助は晴れ晴れとしていたが、約束が反故にされたことを知ると、怒り心頭に発し、お城を睨み付けると西に傾いたと。然し、昭和の大修理で石垣を解体した所、土台の大木の腐食が原因と判明した。

腐った土台を取り除き、コンクリートで補修後は問題は解決。尚、松本城は30万石以上の格式を持つ名城です。但し、領主の禄高は多くても8万石です。此れは戦国時代の終わりごろ、秀吉が家康を牽制する為に名城を建てたと伝えられています。

松本城（30万石以上の格式）

夏の美鈴瑚

冬は平地でも零下12度以下、冷凍庫の内です。子供は風の子。浅間温泉までチンチン電車で。そこから約1時間ほど雪の山道を歩いて、中腹に ある「美鈴湖」でスケートです。国体も開催され 県内一番の氷質を誇るカチカチの青氷。下駄スケートでは刃が立たず転んでばかりです。それでも子供には楽しかった事を覚えています。疲れると氷を割ってワカサギ釣りを、冷たいお餅を食べながら。釣れたのは4～5匹位でしたが、満足の一日。

深志神社（本殿）

各町会の舞台

実家から近くに鎮座しています天神様です。小さい時から身近な神社で、学問の神様　菅原真公を祭っておりますので、頭が良くなる様にと参拝しておりました。例大祭は7月24、25日で綺麗な舞台、御神輿に露店も沢山出て足の踏み場もない位でした。舞台にはお囃子をする人や着飾った子供達が乗っており、笛、太鼓で賑やかで楽しそうでした。然し、うちの町内の舞台は焼けてしまったとのことで、非常に羨ましく思っておりました。普段は境内は狭くもなく、広くもなく小学生が遊ぶのには丁度良いくらいでした。未だ、戦後の感があり、継ぎはぎだらけのズボン、上着で小汚い子供達が常に10名位集まって野球等で遊んでました。今では遠い昔で顔も名前も忘却の内ですが、何とも言えない懐かしさが心に残っております。

信濃一の名水　源智の井戸

松本市は美ヶ原や筑摩山地に降った雨や雪が、地下の巨大な水瓶に地下水として貯められています。その為、井戸や湧水がいたる所から吹き出しています。中世から親しまれる信濃の国 第一の名水と謳われた「源智の井戸」もしかり。また、市民各戸への水道もかつては豊富な水源 から冷たく、美味しい水が供給されていました。そして、旅人にも味わって貰う為に、市内15ヵ所 の井戸を、写真の様に情緒溢れる様に整備しました。此のこともあってか、平成20年度 環境省 全国湧水、地下水100選の中に「松本城下町湧水群」が見事選定されました。

宮澤 龍彦

フクロウに魅せられて

2021年6月15日、初めてフクロウのヒナの姿を直接見られて感動している。

フクロウとの付き合いは約10年前から。宇津貫みどりの会と八王子・日野カワセミ会で、夏以外月1回開催している“野鳥カウント”の時、カワセミ会の方から、「フクロウの鳴き声を聞いた人がいる、尾根道の場所にボイスレコーダーを設置したい」との話があり設置したが、思わしい結果が得られなかったと記憶している。

2012年5月、「巣箱を作ったので設置したい」との話があり、尾根道に設置したが、翌年、翌翌年とフクロウの姿はなく、キイロスズメバチの巣と化していた。フクロウが利用しない時、巣箱はキイロスズメバチの格好の巣となる。入り口を巣と同じ材料で塞ぐ（黄色と黒の縞々）ことにより雨を防げ、約6段の巣を作ることが出来た。冬になりキイロスズメバチが居なくなるのを確認し、巣箱を開けてキイロスズメバチの巣を撤去、清掃して再設置することが数年続いた。場所を変えても同じであった。

フクロウが使わない原因を調べた。「巣箱に枯葉を入れると良い（卵が転がらない）」とのアドバイスを頂き、早速試してみると夏のキイロスズメバチの姿が見えなくなった。そこで、2015年1月に谷筋に巣箱を移設した。更に、補助金を頂いて“トレイルカメラ”（赤外線でフクロウを検知し写真を自動で撮る）を設置して様子を見ることにした。ある時、フクロウの姿が写真に写っていた。今後に期待が持てる瞬間であった。
但し、問題も見つかった。木登りの得意なアライグマが支柱の木杭をよじ登って巣の中に入るビデオを見た時はショックだった。早速ホームセンターに行き、金属製のパイプ（単管）を購入して支柱を取り換えて対策を取ったが、2019年4月の写真に単管の支柱に替えた巣箱の上にアライグマの姿が写っていたのには驚いた。こちらの想像を超えた運動能力である。原因は飛び乗りと推察できたので、早速周りを滑りやすいポリカーボネートの波板で覆い、これでアライグマは登れないと思った。そして、フクロウの姿がカメラに映る機会が増えていった。ある時はヒナらしい姿が写っていたこともあった。

2021年の3月から4月の写真に親鳥の姿が写っていなかったので、今年はダメだと諦めていた。データーの回収と電池交換のため、久々（約3か月の間隔）に宇津貫緑地の巣箱へ行った。親鳥への警戒をしつつ巣箱を見ると、何とヒナがいるではないか。スマホを取り出し写真を撮るがピントが合わない。自宅に戻りカメラと三脚を準備し、再度宇津貫緑地に行き、ヒナの写真を撮った。SDカードと電池を交換し早速PCでデーターの確認を行い、カワセミ会の粕谷さんと城所さんにメールした。

約10年かけたフクロウとの勝手な付き合いであるが、やっとヒナを直接見られた充実感でいっぱいになる。一人ビールで何杯も乾杯。翌週、再度ヒナを撮りに宇津貫緑地に行ったが、残念ながらヒナの姿を見ることは出来なかった。巣箱の中の写真を撮ると親鳥の羽が残っているだけであった。
無事に巣立ったことを期待して、また来年ヒナと会える事を楽しみにしている。

山岸　彰雄

【編集後記】
人間界では毎日コロナ禍の悲報が伝えられています。会の活動も思うにまかせません。しかし、ここ宇津貫緑地では、変わることなく夏の緑に覆われています。「人は自然を必要とするけれども、自然は人を必要としない」ということばに思いを致すこの頃です。